

## 第7回

## 【春潮】

干潟

春の大潮で干潟が広く現れる。浅蜷や蛤を採る「汐干狩」の季語も、鳴門海峡で渦潮を見る「観潮」も春の季語である。若布、搦布、鹿尾菜、角叉、海雲、石蓴、海苔、海髪と、海藻の季語も春に多い。「彼岸潮」という言葉もあるが、日本各地の実際の潮汐現象では、必ずしも春に干満の差が大きいとは限らない。

潮汐は、地球以外の天体の引力で地球の海、大気、固体地球の全体が伸び縮みする現象である。地球の表面にいると、地球の重心に働く重力との差だけが見え、月の側と反対側で重心から離れる力が働くように見える。これを潮汐力という。海水は地球の重力場にあるので地球から離れることはないが、潮汐力で海水が盛り上がって見える。海や大気のように流体の場合には水平の運動を伴う。これを潮汐流あるいは潮流という。漢字の「潮」は朝の、「汐」は夕方のおおの意味を持つ。太陽の潮汐力は月の約〇・四五倍で、他の天体の引力はほとんど無視できる。

月はいへん大きな衛星で、しかも一つである。マンデル対流、プレート運動、地磁気の逆転、また台風、巨大な地震や噴火を起こしながらも、地球が公転軌道に対して常に二三・四度の傾きを保って、安定に自転を続けているのは、月の大きな引力のおかげである。